

別記

審議概要

1 公開案件の審議

(1) 報告1 北海道総体おもてなし活動について

ア 説明員 堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

高校生による北海道総体おもてなし活動について、現在の状況を御手元の横版の資料に沿って報告します。

北海道実行委員会では、全国から訪れる多くの人々をおもてなしの心で迎えるため、様々なイベントを通して高校生によるPR活動を実施しています。

現在取り組んでいる活動として、初めに資料左側の自主事業では、冬フェスとして高校生活動の生徒、委員によりまして、オリジナルのYouTube番組を作成し、記載の四つの部門別に道内の高校から応募のあった動画を配信するイベントを行っており、今月7日から4週にわたり、毎週火曜日16時に配信することとしています。動画の応募は6校から8本あり、いずれも各高校の生徒がこの冬休み期間中に作成したものです。1回目の7日には、ウインタースポーツ部門として、帯広柏葉高校が作成した動画を配信しています。後ほど、この作品を短くまとめた動画を御紹介させていただきます。

次に、資料右側のマスメディアとの連携事業として、北海道新聞社様の御協力の下、今月4日土曜日から11日までの8日間開催されているさっぽろ雪まつりに高校生が参加し、PR活動を行っています。

1点目の雪像作りとして、1月23日月曜日から2月2日木曜日までの11日間、資料では、「延べ11校、92名参加」となっていますが、最終的には延べ10校から延べ74名の生徒が参加し、大通り5丁目会場で、北海道高校生活動イメージキャラクター「ピリカ」を作成して、現在、展示を行っています。

2点目のステージでの活動では、2月4日と11日に、同じく5丁目の大雪像前ステージで、高校生活動として、インターハイのPR活動やインターハイクイズなどを実施しており、また、競技紹介として5日には少林寺拳法、空手、なぎなた、6日には相撲といった各部活動に取り組む生徒による競技パフォーマンスや演武を行っています。

なお、雪像作りやステージ活動の様子を短くまとめたビデオを作成しましたので、これも後ほど、冬フェスと併せて御覧いただければと思います。

このほか、初日の4日から11日までの8日間、特設ブースを設置し、高校生による大会チラシなどの配布をはじめ、各会場地市町における競技紹介や観光グルメ情報のパネル展示、また、ブース内のモニターでは、これまでの高校生の活動記録や雪像作りの製作過程、会場地市町の観光PRなどの動画を放映しています。

さらに、会場内の大型ビジョンでは、雪まつりの開催期間中を通して、担当課で作成しましたインターハイのCM動画を放送しています。

現在活動中の取組は以上ですが、今後とも効果的なPRとなるよう時期を考慮しながら、様々な媒体やイベントとタイアップした広報活動を展開するとともに、各会場地市町の実行委員会や関係機関、団体と連携・協力し、大会成功に向けた機運醸成を図る取組を全道各地で実施していきたいと考えています。

それでは、先程説明しました冬フェスと雪まつりでの広報活動の様子を5分程度の動画で御覧いただければと思います。

(動画を視聴)

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【青山委員】

今見せていただいた動画は、どこかで流れているのですか。

【松井高校総体推進課長】

この委員会用に作成したものです。

【青山委員】

雪まつりのステージで行ったものを編集して、どこかで流していただけると、また違ったPRになって良いのではないかと思います、いかがでしょうか。

【松井高校総体推進課長】

それは、計画をしています。

【青山委員】

1点質問があるのですが、ウインタースポーツ部門から冬の映えスポット部門の「高校生が作成した動画を高校生が配信」というところで、6校から8本しか応募がなかったというところだったのですが、やはり、自由に応募してくださいとなると学校のハードルも少し高いのかなと思うので、例えばですが、陸上とか体操とか水泳とかバスケとか、いろいろな種目があって、インターハイに出る高校に、PRしますので、積極的に1校1本送ってください、気軽に作ってくださいといった方向に変えないと、増えていかないのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

【松井高校総体推進課長】

今後、やはりハードルが高かったというのもありますので、そういった御意見も参考にしながら、進めていきたいと思えます。

【川端委員】

雪まつりの雪像がすごく上手にできていたなと思うのですが、延べ10校、74名が参加したということなのですが、全道広域から学校が参加していたのか、どのような学校が参加していたのか、分かっていたら教えてください。

【松井高校総体推進課長】

全道全ての地域からではありませんが、函館ですとか、旭川、砂川です。札幌以外ではそういったところから来ていただきました。

【川端委員】

では、各学校が日ごとに作業をしていって、連携して最終的にあの雪像を作ったということでしょうか。

【松井高校総体推進課長】

次の学校、次の学校にと、どんどんつないでいった形になります。

【川端委員】

分かりました。きっと今時の子供たちなので、自分たちの作ったところまでを写真にとって、次の学校につないでいったのかなと思いますけれども、すばらしいものができて、いろいろな生徒が参加できて良かったかなと思います。

一つ感想としては、冬フェスの方の動画ですが、私も青山委員同様、自分たちの町紹介というところで、試合があってもなくても、本州から来た選手の人たちに、近くにこんな町があるんだなと気付いてもらえるような動画なり、夕日がきれいだった日のワンショットなどを集めたスライドなりを製作するという方法もあると思うので、どんどん発信してもらえたらなと思いました。

【大鐘委員】

様々な形で、様々なメニューを使って発信されていて、いいなと思って見ているところです。冬フェスの動画配信型イベントですけど、冬フェスとなっていますが、今、青山委員と川端委員がおっしゃったようなことも踏まえてですね、これから、春から夏にかけて、北海道も良い季節になりますので、そうしたものを動画に取り込んで高校生の活躍を全国に発信していただければいいなと思っています。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

このあと、春フェスの予定をしておりますが、おそらくイベント中心になるのかもしれませんが、こういった動画の配信も含めて、実施報告していきたいと思います。

【渡辺委員】

この冬フェス、雪まつりに関しては、北海道の高校であるとか、北海道関連であるとか、そういう方が集まっているので、当然、道内の方が参加しているわけですが、例えば道外から、「このようなことを発信してほしい。」というような希望などはあったりしますか。つまり、全国的な行事ですから、道外の方に見ていただくだけではなくて、ハードル

が高いかもしれませんが、参加していただくようなことが一部あってもよろしいのではないかと思います。

【倉本教育長】

秋フェスのときでしたか、前回開催地の四国の高校生にも来ていただきましたし、今後、次回開催は決まっていますので、お願いしてできるかどうかということもありますが、委員がおっしゃるように、広がりも、何ができるか考えていこうと思います。

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(2) 報告2 高校生対象「教員養成セミナー」の実施状況について

ア 説明員 和田教職員育成課長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【和田教職員育成課長】

高校生対象「教員養成セミナー」の実施状況について、説明します。
御手元の資料のA4横版のカラーの方の1枚目を御覧ください。

まず、本セミナー実施における目的についてです。本セミナーについては、高校生が教職や教員養成大学への進学に新たな可能性を見付け、高校生活や進路に目標や希望を持つことができるよう教職の魅力等を発信するものです。実施に当たりましては、北海道教育大学との共催で、Zoomによるオンラインで行い、参加する高校生は在籍する高校や自宅の端末で参加いただきました。

セミナーの内容としては、資料中段のところにありますとおり、まず、道教委で作成しました啓発動画「北海道の先生の仕事」を事前に視聴していただくことにより、教員のやりがいや魅力に関心を持っていただき、その後、昨年10月に3回に分けて実施した前期日程では、高校生と現職教員、現役の教育大生による座談会を実施し、現職教員や教育大生から、「教員の仕事内容」や「大学生活の様子」についての紹介のほか、高校生への激励メッセージを贈っていただいたり、資料の左下に記載しておりますが、高校生が「先生としての仕事のやりがいは、どんなところなのか。」「大学生活の中で子供と触れ合う機会があるのか。」といった質問を行うフリートークを、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使い複数のグループ分けをして行ったりしたところでした。

12月と本年1月の2回に分けて実施した後期日程では、高校生が先生になりきって算数の指導を行うというもので、資料の右下にありますように、今回は三角形の面積の求め方についてのお題で自分なりの説明の仕方を考え説明する体験を前期同様、グループ分けにより行ってもらい、現職教員や教育大生がアドバイス等を行っています。

ここで、後期の模擬指導の様相について、実際どのような様子であっ

たのか、あるグループの模様を4分ほどにまとめた映像がありますので御覧いただきたいと思います。

(動画を視聴)

御視聴いただきましてありがとうございます。御覧いただいたとおり、高校生は各々、図で示したり、具体的な数字で示したりするなど、工夫しながら一生懸命を説明を行い、今回、映像にはありませんでしたが、発表者以外の高校生は、うなずきながらその様子を真剣に見る様子が見えがえしました。

参加した高校生は、資料の一番下になりますが、前期・後期合わせて、昨年度のほぼ倍の延べ約1,100名、参加校としても20校増え約70校に参加いただいたところです。

資料の2枚目になりますが、現職教員や教育大生による高校生への主なメッセージ内容について記載をしています。教育大生からは「教育実習に行くと、子供と触れ合う楽しさを実感できる。」ですとか、「受験勉強は基本のところを大切にしてください。」ですとか、現職教員からは「子供からの「先生、できたよ」、「わかったよ」という声が元気の源となる。」ですとか、「学校では、周りの先生方と助け合って仕事をしています。」といったお話があったところです。

また、参加した高校生の皆さんからは、資料下段にありますとおり、「先生の仕事や大学生活についてのイメージが持てた。頑張っていきたい。」といったコメントや、「現役の先生や大学生がかっこ良かった。自分もそんなふうになりたい。」などの感想が寄せられたところです。学校教育の質を向上させるためには、教育の直接の担い手である教員を継続的に確保することが極めて重要と考えています。

次年度以降は、当該セミナーのほか、当課で実施をしています「小・中学校で教員業務を疑似体験するインターンシップ」ですとか、「大学生を対象とした、へき地・小規模校での教育実習を体験する「草の根教育実習」」などの取組を連続性・継続性を重視した一体的なプログラムとして再構成するとともに、他課で実施しています「教員基礎コース」と連携を図りながら、高校生段階で抱いた教職を志望する意欲を大学卒

業まで維持し、一層高めることができるよう取り組んでいきたいと考えています。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【青山委員】

参加数が倍に増えているということで、すばらしいなと思いました。プラス20校ということで、取り組まれた成果がすごく出ましたね。今回の動画を見ると、鹿迫の佐藤先生の、高校生に教員になりたいと思わせるようなコメント、フィードバックが本当にすばらしくて、良い先生を選出できたのではないかと思います。

あと、1点提案というか、どのようにお考えになるかお聞きしたいのですが、大学生には教育実習がありますが、高校生にも教育実習のように、10日間くらい、大学生の教育実習のお手伝いという形で教員の体験ができるような、高校生の職業体験実習サポートのようなものがあれば、高校生に教職をもっとリアルに身近に感じていただけるのではないかなと思うのですが、そういった辺りはお考えでしょうか。

【和田教職員育成課長】

既に、高校生が小・中学校に行って先生のお仕事を体験するインターンシップというものも実施していますので、大学の教育実習生とも絡めたようなものがないかということも、今後検討したいと思います。

【渡辺委員】

参加数が非常に増えていますが、運営上、参加数が増えても問題はないのでしょうか。

【和田教職員育成課長】

1回で実施できる人数というのは、Zoomですと300件しか接続できないので限りがありますが、人数が増えても、回数を増やして別々に分けることにより、対応は可能だと考えています。実際、今年度は昨年度と比べて倍増していますが、実質、開催回数も増やした中で実施していますので、対応はできると考えています。

【大鐘委員】

最後に説明のあった、高校生の取組を大学卒業まで継続させるということには、私も大変賛同します。例えば、具体的に、セミナー参加者は大学に行ったら今度は草の根で参加してくださいねという形で、セットでやっていただけると大変良いのかなと思います。草の根の方も大変成果を上げていますので、是非、つなげていただきたいと思います。

事前に、先生の1日ということで動画を高校生に見ていただいたということですが、高校生にどのようなメッセージを送るか、どのようなイメージを持たせるかによって、随分、動画の作り方が変わってくると思いますが、どのような内容なのか教えていただけますか。

【和田教職員育成課長】

この啓発動画については、現職の教員へのインタビューと、実際に先生が1日の中でどのような体験をしているかという内容で、具体的には、授業での工夫や達成感、学級担任の魅力、先生が抱えている不安やトラブルの対処方法、子供たちの成長を感じる時はどのような時か、現職の先生がどのような目標を持って仕事をしているか、また、これから教員になる方が一番不安に思うのかなと思いますが、保護者との関わり方について現職の方がこういうふうにやっていますよとアドバイスするような内容の動画になっていまして、全部で15分ほどの動画にまとめているところです。

【大鐘委員】

実際の先生の生の声で、先生の魅力とかやりがいとかを発信してイメージとして持ってもらおうということですよ。できるだけ憧れを持たせてもらえるような内容だとありがたいと思います。

【川端委員】

大鐘委員もおっしゃるように、憧れを持って進んでほしいと思う反面、やはり、憧れだけではなく、入学式の後にはこんなに忙しい時もあるのだとか、こういう時は自分に余裕があるのだとか、社会人になると、夢と現実のギャップを知ることがよくあると思いますが、その辺について、座談会やフリートークでどのように取り上げられているのか教えて

いただけますか。

【和田教職員育成課長】

座談会の中で、学生からそのような質問も出ていました。対応してくれた先生方の中には、自分が希望する部活動の担当ができなかったとか、保護者の対応でこういう苦勞がありますよとか、教員は今、「ブラック」と言われている部分もありますので、勤務としては忙しい部分は確かにありますよという実態はお話していただいています。

ただ、その上で、先程のコメントの中でも例示しましたように、周りの先生方も手伝ってくれるし、協力し合いながらやっていますよという形で学生たちに向けてメッセージを送ってもらったところです。

【川端委員】

実際、何をやるにしても夢だけでは進めないというのが現実だと思いますが、その現実を乗り越えた時の達成感とかやりがいとかを先生方から伝えてもらえたら、すごく現実に近づきながら高校生がこのセミナーで教員の仕事を感ぜられるのかなと思いますので、今後とも、いろいろな意見が出るような形で進めて行っていただければ良いと思います。

【清水委員】

今回のセミナーですが、昨年と比べると参加校も人数も随分増えたと思います。先程、動画を見せていただきましたが、実際高校生が教えてみるというのは、良い経験になったのかなと思います。やはり、企画が素晴らしいのかなという印象を受けました。

今回、教員養成セミナーということで、これだけの人気もありましたし、皆さん、楽しく参加したようですので、これを次につなげるという観点では、先程、御説明のありました草の根とかインターンシップとかも踏まえて、一体的なプログラムとして考えていくというお話もありましたが、ファンを獲得していくような作業になりますけれど、高校生を対象とした一体的なプログラムとして定着し、継続性を持って総合的なプログラムになっていくと非常に素晴らしいなと思います。

【渡辺委員】

先程、動画を見せていただいて、これはあくまでも教員養成セミナー

ということでプログラムされていると思いますが、この教員養成セミナーに参加した方というのは、教員にならなくても、かなりいろいろなイメージを持って社会に出て行くのではないかなと思いましたので、そういった意味合いでも是非、続けていただきたいと思うのと、そのような価値観が出てくると、人が集まる裾野が広がるのではないかと思うので、その中から「思いもしなかったのだけれど、やっぱり先生をやってみたくなった。」という方が現れると、目的としては非常によろしいのではないかと思います。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(3) 報告 3 文部科学大臣表彰（優れた「早寝早起き朝ごはん」運動）の被表彰活動の決定について

- 報告を了承